

日本語入力ソフトを使いこなす^上

複数IMEを切り替え ■ 特定操作の指定も

ウィンドウズで使う日本語入力について、今回から2週連続で紹介いたします。パソコンでは、どのソフトでも同じように日本語が打てるので、「日本語入力」は基本ソフト(OS)の機能の一つのようにも見えますが、実際は独立したソフト。他社製の商品に入れ替えることもできます。今回は、日本語入力ソフトの「切り替え操作」を説明します。(ライター 斎藤幾郎)

てくらの生活入門

ワードで文書を作成する、アウトLOOKでメールを書く、インターネット・エクスポローラーでウェブサイトを検索……私たちは日々、様々な場面で「日本語の入力」をしています。

どんなソフトを使っているか、力をオン/オフできますし、読みをタイプしてスペースバー(キー)を押せば漢字やカナの交じった文に変換できます。



ここで使うのが「日本語入力ソフト」。

「日本語IME」とも呼ばれます。IMEとは「キーボードで打った文字を言語に合わせて変換し、入力する機能」といった意味を持つインプット・メソッド・エディター(Input Method Editor)の頭文字です。

ウィンドウズには標準で、マイクロソフト製のIME、通称「MS-IME」が付属しています。オフィス搭載パソコンは同名IMEのオフィス版で、バージョンが異なります。以前はどちらの機能も同等でしたが、

現在のオフィス2007からは「Microsoft Office IME」という名称になり、ウィンドウズ付属のものより大幅に機能強化されています。

日本語入力ソフトには、ジャストシステムの「ATOK(エイトック)」やグーグルの「Google日本語入力」などもあります(次回紹介予定)。



一般にパソコンの日本語入力ソフトは利用者

者が自由に追加し、切り替えて使えます。パソコンに複数の日

本語入力ソフトがある場合、画面上の「言語バー」にある日本語入力ソフトのアイコンをクリックするとリストが表示され、別の日本語入力ソフトに切り替えることができます(図右上)。

ただしウィンドウズXPでMS-IME(オフィス2003のMS-IMEを含む)から別の日本語入力ソフトに変更する場合は例外で、キーボード形のアイコンを使います(図左上)。

MS-IMEのアイコンをクリックして表示されるメニューでは、赤いアイコンの「Standard(スタンダード)」と青い「Natural Input(ナチュラルインプット)」だけを切り替えられます。実は、両者は同じMS-IMEで、入力方式が違うだけです。このメニューでは、キーボードのアイコンの表示/非表示も切り替えられます。

日本語入力ソフトはキー操作でも切り替え可能。通常はCtrlキーを押しながらShiftキーを押して切り替えます。

標準で利用する日本語入力ソフトの設定や、キーボードを使った日本語入力ソフトの切り替えの設定などは、ウィンドウズ

が一括管理しています。変更するにはコントロールパネルの「テキストサービスと入力言語」を使います(図中)。図の説明はXPのもので、手順や表示内容の細かい部分はビスタやウィンドウズ7で異なりますが、だいたい同じです。

ウィンドウズやオフィスの大規模な更新が行われると、「既定の言語」の設定が他の日本語入力ソフトからMS-IMEに戻ることがありますが、この方法で元に戻せます。

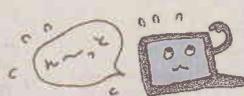


「詳細なキー設定」画面では、リストから

日本語入力ソフトを選んで「キーシーケンスの変更」をクリックすると、その日本語入力ソフトを指定のキー操作で呼び出せるようになります(図下)。

「詳細なキー設定」画面で、「入力言語を切り替える」を選び、設定画面で「キーボードレイアウトの切り替え」を変更すると、Ctrl+Shiftによる日本語入力ソフトの切り替えを無効にできます。ウィンドウズXPで、キー操作ができるのに設定が無効の場合も、一度有効に設定し直した後は正しく反映されます。

日本語入力ソフトを切り替える方法



MS-IME からの変更(XPの場合)

言語バー上のキーボードのアイコンをクリックし、目的の日本語入力ソフトを選択



互いに切り替え可能

MS-IME 以外 からの変更

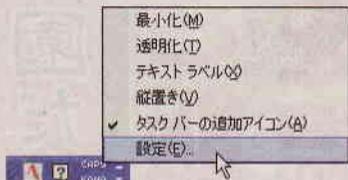
日本語入力ソフトのアイコンをクリックし、目的のソフトを選択



(ビスタとウィンドウズ7では、MS-IMEもこの方法で変更)

ショートカットキーで切り替えるには

言語バーを右クリックして「設定」を選択



または...

「スタート」

「コントロールパネル」

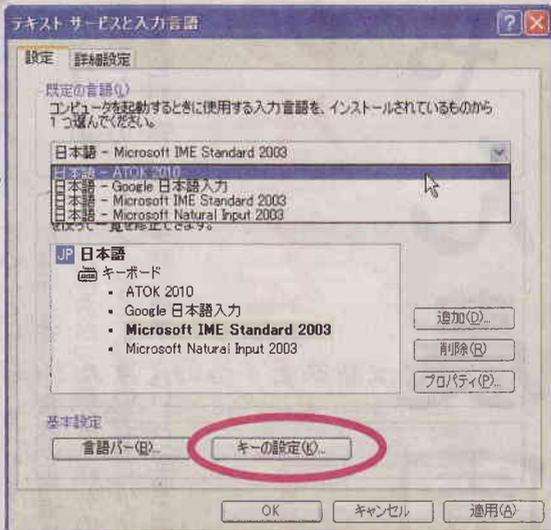
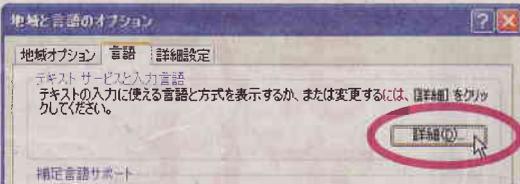
「日付、時刻、地域と言語のオプション」

「地域と言語のオプション」

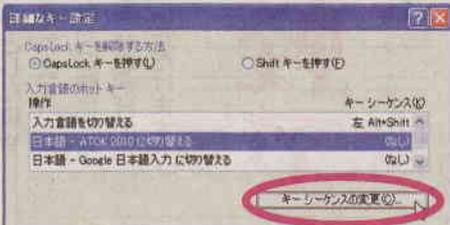
「言語」タブを選択



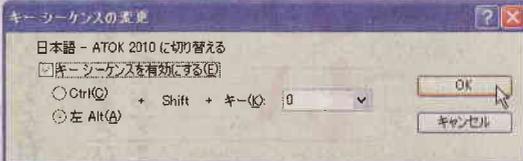
「詳細」ボタンで細かい設定が可能に



キーの設定をクリック



標準設定では、「Ctrl」を押しながら「Shift」を押すことで、日本語入力ソフトを順番に切り替えられる



「キーシーケンスの変更」から、特定の日本語入力ソフトを呼び出すキー設定ができる

日本語入力ソフトを使いこなす^下

新語に強いグーグル ■ 正しい変換はATOK

今回は、最近注目を集めている日本語入力ソフトを紹介します。無料の「グーグル日本語入力」と、市販製品の「ATOK (エイトック)」の2種類です。ウィンドウズパソコンの標準の日本語入力ソフト「MS-IME」などを使っていて、「変換のやり直し」の多さにイライラしている人には、試してみる価値が十分にあります。

(ライター 斎藤藤郎)

てく生活入門

検索サービス大手のグーグルは、昨年末から「グーグル日本語入力」のベータ版(開発途中版)を公開しています(図右)。同社ウェブサイトでダウンロードしてインストールすれば無償で使えます。



グーグルが提供するソフトの多くはネット

につないで使いますが、これは入力の際にいちいちネット接続する必要はありません。インストール時に選ぶ「使用状況をグーグルに送信する」という項目は、誤動作情報などを報告するだけで、入力や変換の内容がグーグルに筒抜けになる心配はありません。

開発にはグーグルがウェブ検索のために収集した膨大なウェブの情報を機械的に分析した結

果が利用されていて、「ウェブでよく使われている言葉」や「よく使われる言い直し」を変換しやすいのが特徴です。

数字打つだけで残りの文字を推測して入力候補を提示する「サジェスト(提案)機能」があり、文章を少ないキー数で入力しやすくなっています。自分で変換した語もサジェスト表示されるようになるので、使えば使うほど自分が多用する言葉を入力しやすくなります。

グーグル日本語入力が得意なのは新語、専門用語、有名人の名前など。ブログやネット掲示板への書き込みが多い人には便利です。変換に使われる辞書はときどき更新され、常に「ウェブの今」を反映するのが強みです。

ただしウェブで多く使われていることは必ずしも正しいとは限りません。例えば「けんけんがくがく(喧嘩誇々)」「はけんけんごうごう(喧嘩轟々)」「かかんかんがくがく(侃々諤々)」の誤表記ですが、こう書かれたページが多いらしく、グーグル日本語入力では普通に交換されてしまいます。



入力の際に、変換が正しいかどうかの判断基準を示してくれるのが、国産ソフトメーカー、ジャストシステムの「ATOK」です。

ATOKはウィンドウズ以前からある日本語入力ソフトのしにせ。2月に最新の「ATOK 2010」が発売されました(図左)。パッケージ版以外にダウンロード版や月額利用版もあります。ワープロ「太郎」や統合ビジネスソフト「ジャストスイート」にも付属します。

ATOKの変換精度の高さは定評がありますが、最近は同音語や難しい言葉を変換した際に意味を横に表示するなど、言葉を正しく使うことを補助する機能が充実しています。ビスタ以降のMS-IMEにも似た機能がありますが、誤用や、商標か

どうかといった指摘(後者は設定が必要)、意味の近い別の言葉を提案する機能まであるのがATOKです。

グーグル日本語入力のサジェストに相当する「省入力」機能もあります。過去の変換履歴などを参考に、同じ語を繰り返し入力する手間を省きます。最新版は英語の入力も補助します。

「CapsLock」キーを押すと英語入力モードになり、英語のつづりチェックや、省入力が可能になります。

変換用辞書を追加できるのも魅力。人気スポーツやヒット商品、著名人の名を変換する「トレンド省入力データ」などが無償公開されており、簡単にダウンロードして追加できます。

明鏡国語辞典、ジーニアス英和/和英辞典といった電子辞書も別売りがされており、追加すれば辞書内の語に変換できるようになるうえ、変換中の語句の意味もより詳しく調べられます。

日本語入力ソフトは「言語バー」やCenterキーとShiftキーの同時押しで切り替わります。誤操作で切り替わっても、慌てず元に戻しましょう。



